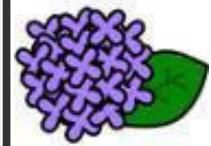


幸福の科学学園建設反対の緊急集会開催！

まち連だより



6月号

住民330人が参加

マスコミも取材

学校法人「幸福の科学学園」が大津市仰木の里に13年開校を計画する関西校について、「建設ストップ」に向けた緊急の集い」と題した住民集会が6月5日、仰木の里市民センターで開催されました。住民ら約330人が参加しました。

主催したのは、「仰木の里まちづくり連合協議会（略称 まち連）」。建設予定地周辺10自治会が集まり、幸福の科学学園建設をストップし、地域のまちづくりを考えようとした。趣旨のもと4月に結成されました。

②学園建設予定地が、地すべりの危険性が高い地盤であること。

土木工学の専門家より、土地造成前の航空写真や、周辺地のボーリングデータなどの分析が紹介され、建設予定地は、かつて谷や川であつた土地を埋め立ててつくった非常に軟弱な「谷埋め盛土」であることが報告されました。このような地盤は、先の東日本大震災でも甚大事な地すべり被害をもたらしたとして、読売新聞・朝日新聞にもとりあげられています。

が三重県に学校設置申請後取り下げたケースがあります。当時の緯が、反対運動の中心人物であった松本繁世医師からのビデオレターと共に紹介されました。私学審議会により「公聴会」が開催され、その場で、ヤマギシズムやその学校の問題点が次々と明るみにでると、反対の世論が高まり、行政も動き出し、最終的には学校側が認可申請を取り下げました。

点からも問題であること、②万が一、このような危険性を抱えたまま大津市が建築確認をおろした場合、住民が一丸となつて、「開発審査請求」を提出することも視野にいられるべきであることが、提言されました。

今こそ、住民が団結して意思表示を

顧問弁護士団からは、さらに、法律的観点から追及していくのはもちろんのこと、住民の声を広く発信し、世論を形成していくことが、今後の運動にとって最も重要な点という助言もいただきました。集会に参加した住民からも、「住民一人一人が意思表示していくときだ」「のぼりをもつと立てるべきだ」といった声があがりました。

なお、集会の様子は、当日のびわ湖放送ニュースで放映され、また、翌日の毎日新聞等でも報道されました。

次回学集会のお知らせ

日程:2011年7月10日(日)
場所:北部地域文化センター
大津市堅田2丁目1-11
第1部(10時~予定):「子どもの教育と宗教を考える(仮称)」
第2部(14時半~予定):「幸福の科学とはどういう団体か?その反社会性を考える(仮称)」

滋賀県への要望書の要点

- 1)次の2つの条件が満たされるまで私立学校審議会を開かないことを求める。
 - ・大津市議会の請願採択にもとづく地元の合意が形成されること。
 - ・建設予定地の地盤の安全性を保証するデータが提出されること。
- 2)もし私学審議会を開く場合には以下の2つを求める
 - ・私学審議会として公聴会を開催し専門家の意見を聞く。
 - ・県として設置主体の信用性に対する調査を行う。

(5月31日提出 回答期限6月17日)

大津市への要望の要点

今回の建設計画が開発申請に該当しないことを認めないよう求める。

(6月9日提出 回答期限 6月20日)

まち連緊急記者会見

6月9日、滋賀県庁にて、まち連が「幸福の科学学園の学校建設反対に係る緊急会見を開き、朝日新聞、読売新聞他新聞7社と、びわ湖放送が参加しました。会見では、幸福の科学学園建設が、住民合意のない中で、一方的に進められようとしている状況をうけて、まち連として、滋賀県知事ならびに大津市長に対し、要望書を提出したことが発表されました。